

製造業における DX推進の進め方

現場負担を増やさず、生産性向上を実現するための実践ガイド



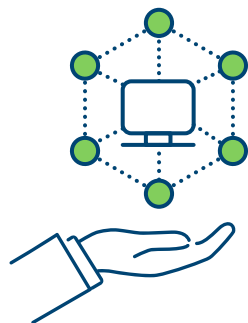
はじめに

近年、多くの製造業企業でDX（デジタルトランスフォーメーション）への関心が高まっています。背景には、人材不足の深刻化や市場環境の変化、競争の激化があります。

一方で、「DXに取り組みたいが何から始めればよいかわからない」「システム導入を検討しているが成果につながるイメージが持てない」といった悩みを抱える企業も少なくありません。

DXという言葉は広く使われていますが、本来の目的はシステム導入そのものではなく、デジタル技術を活用して業務や組織のあり方を改善し、企業価値を高めることにあります。

本資料では、製造業におけるDX推進の必要性や進め方、よくある失敗例と成功のポイントについて解説します。



Contents

はじめに	01
製造業が抱える3つの課題	02
DXとデジタル化の違い	03
DX推進の全体ステップ	04
よくある失敗例	05
成功企業に共通するポイント	06
DX推進ロードマップ	07
DX推進チェックリスト	08
おわりに	09

製造業が抱える3つの課題

製造業では長年培われた業務プロセスが存在する一方で、次のような課題を抱えている企業が少なくありません。

3つの課題

属人化

製造条件や設備調整のノウハウが特定の担当者に依存しているケースです。ベテラン社員の退職や異動によって、業務品質の低下や生産性の悪化を招く可能性があります。

情報の分散

紙の帳票、Excelファイル、メールなどに情報が散在している状態です。必要な情報を探す時間が増え、意思決定の遅れにつながります。

人材不足

少子高齢化に伴い、多くの企業で採用が難しくなっています。限られた人員で成果を出すためには、業務効率化が不可欠です。



様々な問題が
発生



経営への影響

DXとデジタル化の違い

DXとデジタル化は混同されがちですが、意味は異なります。

デジタル化とは、紙の書類を電子化したり、手作業をシステム化したりすることです。
一方でDXは、その先にある業務改革や価値創出を目指します。

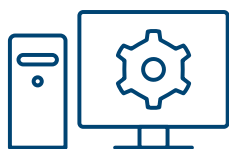


例えば、紙の日報をシステム入力に変更するだけではデジタル化です。

しかし、そのデータを活用して設備稼働率を分析し、生産計画の最適化につなげる取り組みはDXといえます。

DXのステップ

デジタル化



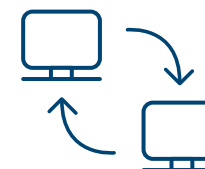
データ蓄積



分析



改善



重要なのは、「ツールを導入すること」ではなく、「**データを活用して業務を改善すること**」です。

DX推進の全体ステップ

DXを成功させるためには、段階的に進めることが重要です。



DXを確実に成功させるためには、**失敗パターン**を学ぶ必要があります。

よくある失敗例

DX推進が期待した成果につながらないケースには共通点があります。

システム導入が 目的化している

「DXをやるためにツールを入れる」という状態です。課題が明確でないまま導入すると、現場で活用されないまま終わることがあります。



現場を巻き込めて いない

経営層だけで推進すると、実際に利用する現場との温度差が生じます。結果として定着せず、利用率が低下します。



一気に 変えようとする

大規模な改革を短期間で進めると、現場への負担が増加し、反発が生じやすくなります。



DXは短距離走ではなく、「**継続的な改善活動**」として捉えることが重要です。

成功企業に共通するポイント

成功している企業にはいくつかの共通点があります。

1



第一に、**小さく始めている**ことです。
最初から全社展開するのではなく、特定部署や業務に限定して試験導入を行っています。

2



第二に、**現場主導で進めている**ことです。
実際に業務を行う担当者の意見を取り入れることで、使いやすい仕組みを構築しています。

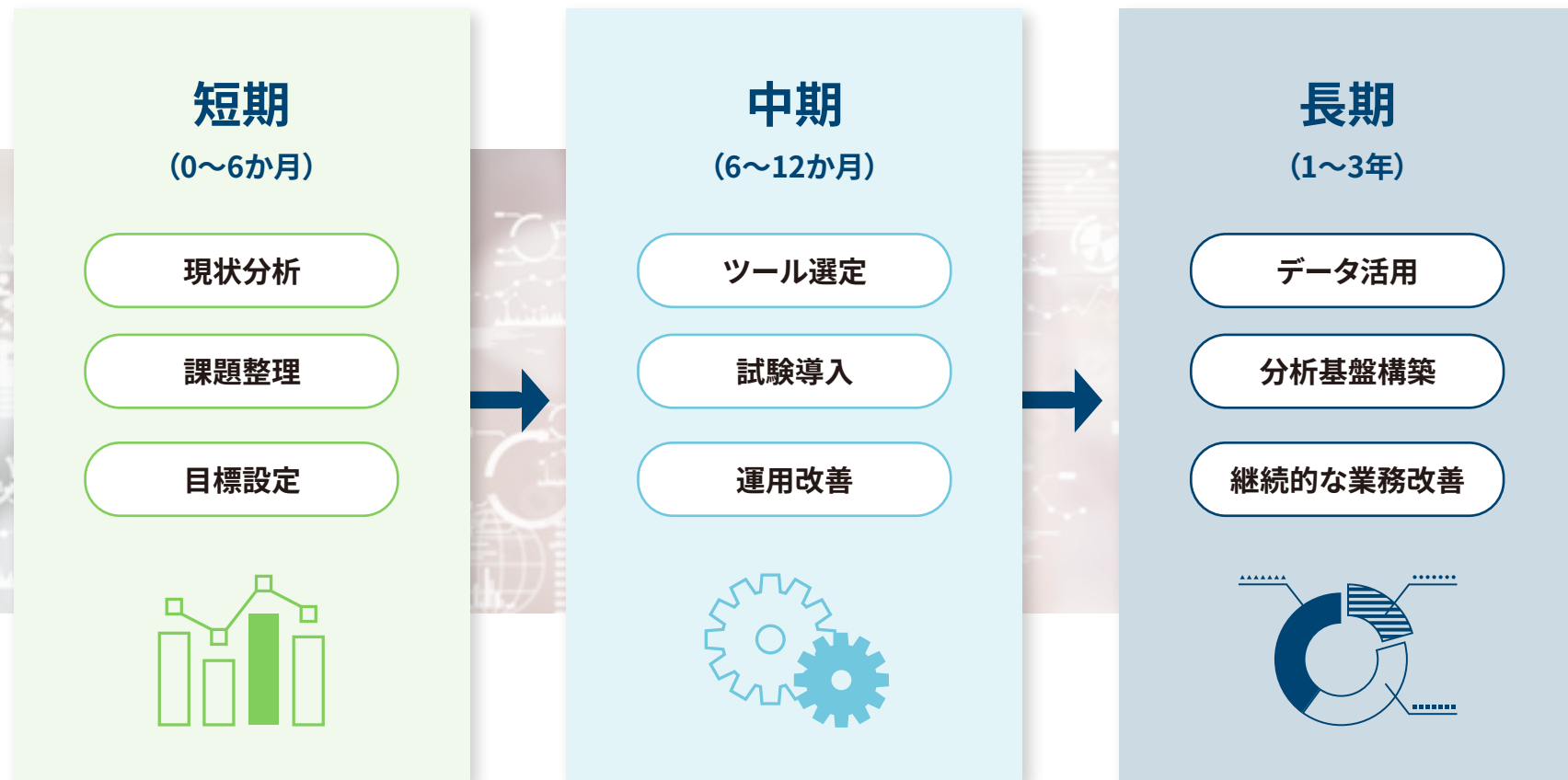
3



第三に、**成果を可視化している**ことです。
削減工数や作業時間短縮などを数値化し、継続的な改善につなげています。

DX推進ロードマップ

DXは中長期的な視点で進めることが重要です。



すべてを一度に実現しようとせず、「**段階的に取り組むこと**」が成功の鍵となります。

DX推進チェックリスト

次の項目にいくつ当てはまるでしょうか。

☐ 紙による業務が残っている

☐ Excel管理が属人化している

☐ 情報共有に時間がかかる

☐ データ活用が進んでいない

☐ ベテラン社員への依存が大きい

☐ 人材不足に課題を感じている

☐ 業務改善の優先順位が不明確

3項目以上当てはまる場合は、
DX推進による改善効果が期待できる可能性があります。



おわりに

製造業におけるDXは、単なるシステム導入ではありません。
現状の課題を正しく把握し、デジタル技術を活用して業務そのものを改善していく取り組みです。

成功のポイントは以下の4つです。

現状を正しく把握する

小さく始める

現場を巻き込む

成果を測定する

DX推進は一度で完成するものではなく、継続的な改善活動です。
まずは自社の課題を整理し、できることから着実に取り組むことが成功への第一歩となります。

